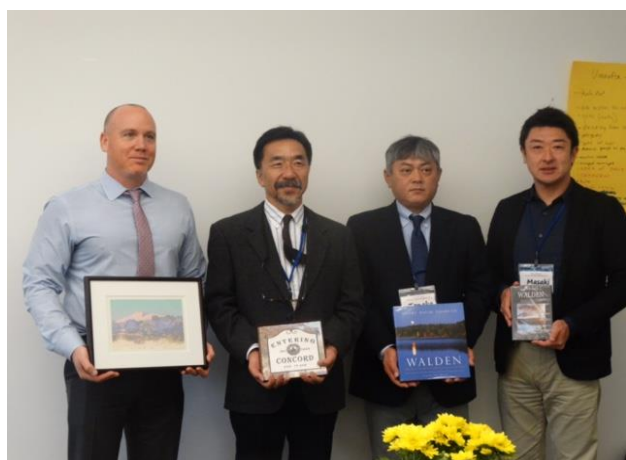


～2016 コンコード派遣 報告書～

引率教員 七飯高等学校長 なひら ひろし 名平 裕

アメリカは大きいし、実に色々な人、およそ考えられるあらゆる人種の人々がいる。従って「アメリカ人」という単語は辛うじて国籍は示すが、ステレオタイプの的に人々を表現できる言葉ではない。皆が建国の思想を誇りに持つ事によりアメリカが1つの国として成立していることにあらためて感心する。様々な人々がいて様々な主張があるが、結局は人々が自分たちはアメリカ人であることに誇りを持ち、自他を尊重でき、許容量が大きい事でサラダボール（メルティングポット



コンコードカーライル高校にて
～マストルーロ校長先生と～
コンコードにウォールデンpond、
七飯に大沼

トではなく)が割れずにいるのだ。ニューヨークの雑踏にもまれていても何となくホっとするのは多様性の中でお互いの存在を認め合う空気を感じるからだろう。均一性を求める日本社会との違いは大きいと感じた。

ホームステイの期間中、快適で心のこもった対応をして下さったナレンバーグ一家にはあらためて心からお礼を伝えたい。一家は敬虔なユダヤ教徒で日々の生活もその教えに従って営まれていた。実は家にはテレビも無かった。だから、夕食が終わってビール片手にソファ

ーに埋まり **MLB** (メジャー・リーグ・ベースボール) や **NFL** (ナショナル・フットボール・リーグ) のプレーに「オーマイガー！」(我が妄想中のアメリカンライフ)なんてなかった。テレビがなければ成立しない我が家と違って「家庭」とか「家族」という言葉の似合う場所だった。

さて、引率教員という立場での参加にはことさらに緊張感を覚えた。コンコードカーライル高校で授業を行う事以外に特段の具体的役割を示される訳でもない。自分としては中高生の事前指導も役割とするべきであろうと考えていた。文化発表の計画と準備、高校紹介のスライドショーの作成(カフェテリア横の超大型液晶画面で一日中流してもらえるので、次回も何かスライドショーを用意すると良いだろう)やラジオ番組の原稿作り、ホームステイ先で活用できそうな会話の練習。手がけると片手に余りそうであった。心配をよそに高校生は準備段階から集中して事に臨み、中学生との連携も怠りなく物事はスムーズに進み、「もっと何か出来そうだね。」という感じであった。ハードルは高く数も多い方が越し

ていく達成感は大きい。退任する国際交流員のクリス氏への寄せ書きも企画して、別れの朝には皆をホロリとさせてくれた。さらに、派遣団の T-シャツまで作ってしまった。「アメリカと言えばコーラだろう」と Coca-cola のロゴで Con-cord と書いたら上手く出来過ぎて誰にも気付いてもらえず「なぜコーラなの？」と説明が厄介な位だった。一緒に参加した後藤さんが言っていたが、生徒達は「スイッチがパッと入る」集団だった。お陰で現地でのラジオ、テレビ収録は全て彼ら任せで、私は自分の授業に集中出来た。いみじくも中宮町長が出発前におっしゃった「この旅で子供達は成長する」と言う言葉は確かに当たっている。ニューヨーク最後の夜に派遣団全員が一つの部屋に集まり語り合った。旅のこと将来のこと。生徒達の言葉を黙って聞いていると、「これからの世界もまんざらじゃ無い」気持ちにさせてもらった。もっと多くの青少年にこのような機会が巡って欲しいものだ。彼らにとっての地球は今回の旅で確実に小さくなった。



～こんなポスターに「アメリカ」を感じる～
コンコードカーライル高校に掲示されていた格言
意味は「たとえ、あなた1人だけがその立場でも、それが正しい立場であれば貫き通せ」

授業に関しては数ヶ月前からコンコードカーライル高校の担当者と打ち合わせをさせてもらい、語学あるいは文化の正規の時間枠で3時間の授業が実現した。十分な準備が出来たので授業の中に位置づけて下さった先生方にも報いることができた、と少なくとも自分だけは思っている。内容は和歌から俳句誕生に至る歴史と文化的位置づけについての解説、日本語で詠む俳句の基本的なルールと名作の解釈、最後は簡単なルールを設定して英語で俳句を作るというもの。生徒も先生も積極的に取り組んでくれ、最後には何編かの素敵な俳句を詠んでくれた。ちょっと宝物の気分である。日米の違いはそれ程感じることはなかった。教師が楽しめる授業は生徒にとっても楽しい授業なのだと信じたい。

コンコードからニューヨークへ。実はこの移動が個人的には最も印象的な時間であったように思う。アメリカは広く、ドラマや映画の中でも「移動」や「乗り物」が印象に残るところだ。メイン州からフロリダ州まで約4000km、アメリカ最長の国道1号線をバスでひた走る。もはやニューシネマの世界である。「真夜中のカウボーイ」の「ジョー」と「ラッツォ」を思い出す。寒さにコートの襟を掻き寄せ「このまま走れば3日後にはフロリダだ。」思わず「ラッツォ」になりきる。高速道路を走るバスの車窓を「アメリカ」の景色が丁度良い速度で流れ去る。映画で観たあの「アメリカ」だった。もしも乗っていたのが「グレイハウンドバス」だったら涙くらい流していたかも知れない（笑）。

大統領選挙間近！という時期の訪米。所構わず選挙の話題になった。コンコードカーライル高校の先生方と懇談した時にも、日本人としての感想を求められた。TPP や核問題にも当然大きな関心が寄せられていた。ただ、候補者に対する彼らの批評は明らかなのだが、いざ誰が大統領になるべきかという段になって口を濁すもどかしさを感じ、それは選挙の結果が出るまで続いた。アメリカの富の偏りを示す「1%と 99%」の歪みの変化を求める空気を醸し、予想を覆す選挙の結果となった。"Make America Great Again"（訳：アメリカを再び偉大にしよう）となるのだろうか。

この度の派遣に参加した事で両町の暖かな関係を再確認出来た気がする。また、姉妹校としてのコンコードカーライル高校と七飯高校の将来像のデッサンは大きく捗ったと言える。高校生交換留学に関しても然りである。機会を提供して下さった七飯町には心からお礼を申し上げるとともに、今後の連携と支援についてもお願いしつつ報告とさせていただきます。

2016年12月27日にこの交流活動に大きな足跡を残して旅立ったトム・カーティン氏の冥福を心から祈りつつ。